

## 第3章 市場調査

## 2-3. 外的要因の整理

# 外的要因 | 項目整理

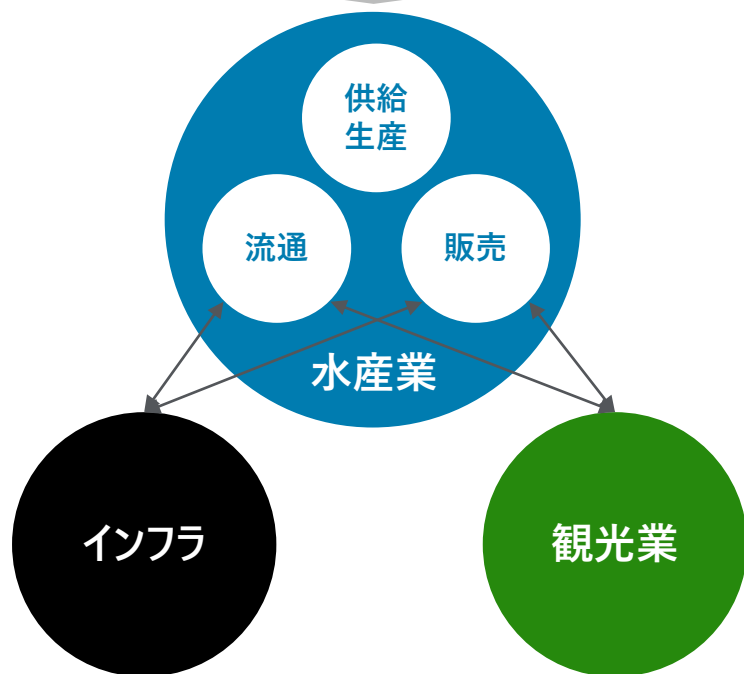
供給生産・流通・販売という3つの観点から水産業における主要な外部要因について、水産業の供給・流通・販売と連携/影響するインフラ・観光業についての視点も加えて調査した。

## 論点整理

### 【仕様書】

③影響を与える外的要因の整理

泊漁港周辺のインフラ整備（臨海道路若狭港町線のピア工事等）や、周辺地域の水産物の流通・販売の現状など、ハード・ソフト両面での外的要因の整理を行う。



## 主な調査項目（机上調査）

分野	調査項目・内容
水産業	供給生産 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁業：事業者数・従業員数【全国・県・市】</li> <li>・ 漁業就業者数の推移【全国・県・市】</li> <li>・ マグロ類漁獲量【県（都道府県別）】</li> <li>・ 海面漁業生産高・マグロ生産高の推移【県・市】</li> </ul>
	流通 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人口・世帯数の推移【県・県南部*・市】</li> <li>・ 世帯当たりの消費支出額の推移【全国・県・市】</li> </ul>
	販売 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6次産業化（漁業）販売金額【全国・県】</li> <li>・ 6次産業化（水産物加工）の市場規模の推移【県】</li> <li>・ 6次産業化（水産物直売所）の市場規模の推移【県】</li> <li>・ 卸売市場：位置、規模などの施設概要、取扱量【県南部*】</li> <li>・ 直売所：位置、規模などの施設概要【県/県南部*】</li> </ul>
インフラ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 那覇北道路（臨海道路若狭港町線）：事業概要、影響</li> <li>・ 那覇港周辺の物流拠点：整備状況</li> </ul>
観光業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入域観光客数・観光収入の推移【県・市】</li> <li>・ 観光客消費額の推移・内訳【県・市】</li> <li>・ 観光客の旅行内容活動【県】</li> </ul>

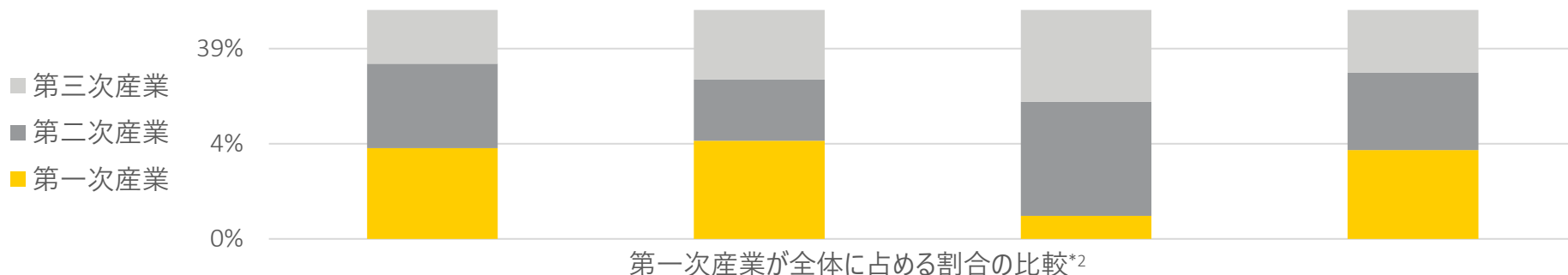
\*県南部：那覇市、浦添市、豊見城市、糸満市、南城市、与那原町、南風原町、八重瀬町

## 外的要因 | 水産業（供給生産）

那覇市における第一次産業従業者数と漁業就業者数の全体に占める割合は全国や沖縄県、地方の港町と比べて低くなっている。加えて沖縄県内人口最多であり、那覇市と同様に中核市に指定されている松江市に比べても低くなっている。反対に第二次・第三次産業従業者数の割合が高くなっており、消費型産業の比重が高い傾向にある。

### 産業大分類別従業者数（全国・沖縄県・那覇市・松江市）

	全国	沖縄県	那覇市	参考：松江市
合計*1	57,643,225	577,419	125,837	97,465
第一次産業 (漁業従業者数： 全体に占める割合)	1,962,762 (132,065 : 0.23%)	23,267 (2,318 : 0.4%)	824 <b>(142 : 0.11%)</b>	3,183 (703 : 0.72%)
第二次産業	13,259,479	79,353	12,244	17,464
第三次産業	40,679,332	451,426	107,615	74,168



\*1: 合計の数値内には「分類不能の産業」も含まれる

\*2: 第一次産業の割合を比較しやすくするため、対数目盛を使用している

第一次産業：農林漁業

第二次産業：鉱業、採石業、砂利採取業、建設業、製造業

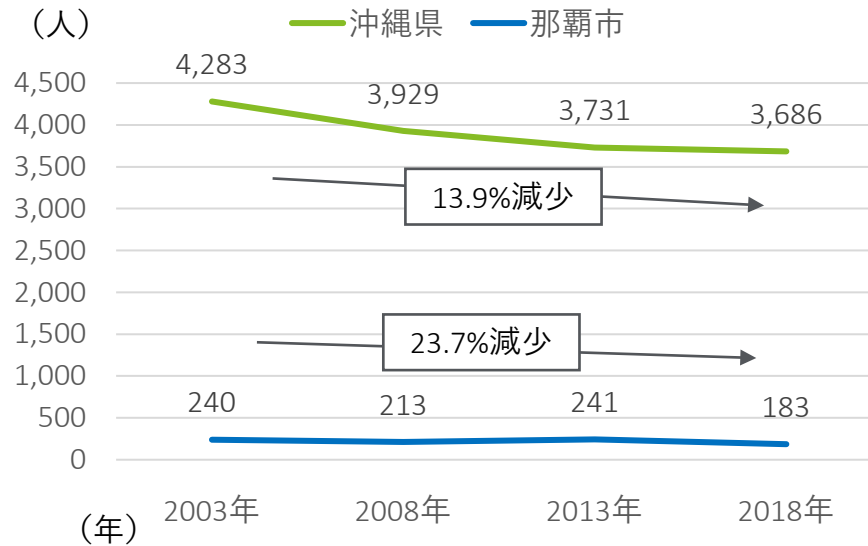
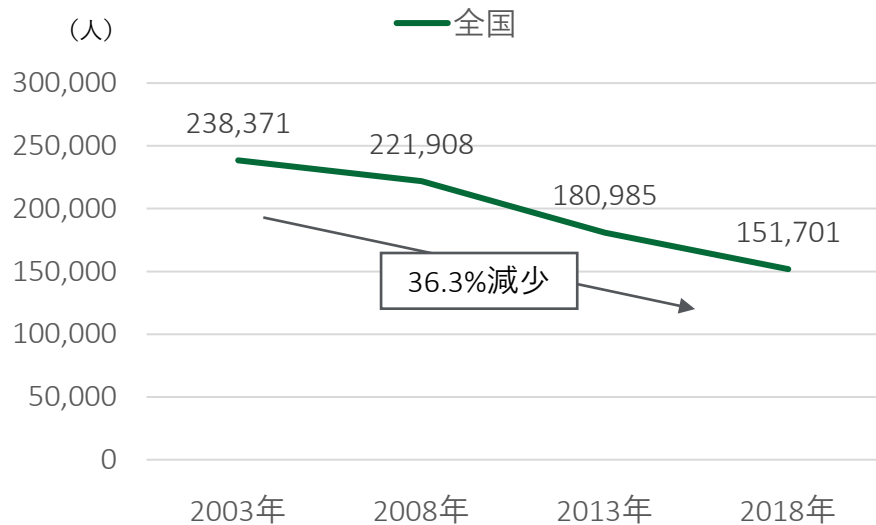
第三次産業：電気・ガス・熱供給・水道業、情報通信業、運輸業、郵便業、卸売業、小売業、金融業、保険業、不動産業、物品賃貸業、学術研究、専門・技術サービス業、宿泊業、飲食サービス業、生活関連サービス業、娯楽業、教育、学習支援業、医療、福祉、複合サービス事業、サービス業（他に分類されないもの）

出所：政府統計の総合窓口(e-Stat) ([https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?stat\\_infid=000032201184](https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?stat_infid=000032201184)) 令和2年国勢調査(総務省)を基に作成

## 外的要因 | 水産業（供給生産）

沖縄県や那覇市の漁業就業者数の減少率は全国に比べて小さく、全国に比べると漁業就業者数は相応に安定している。

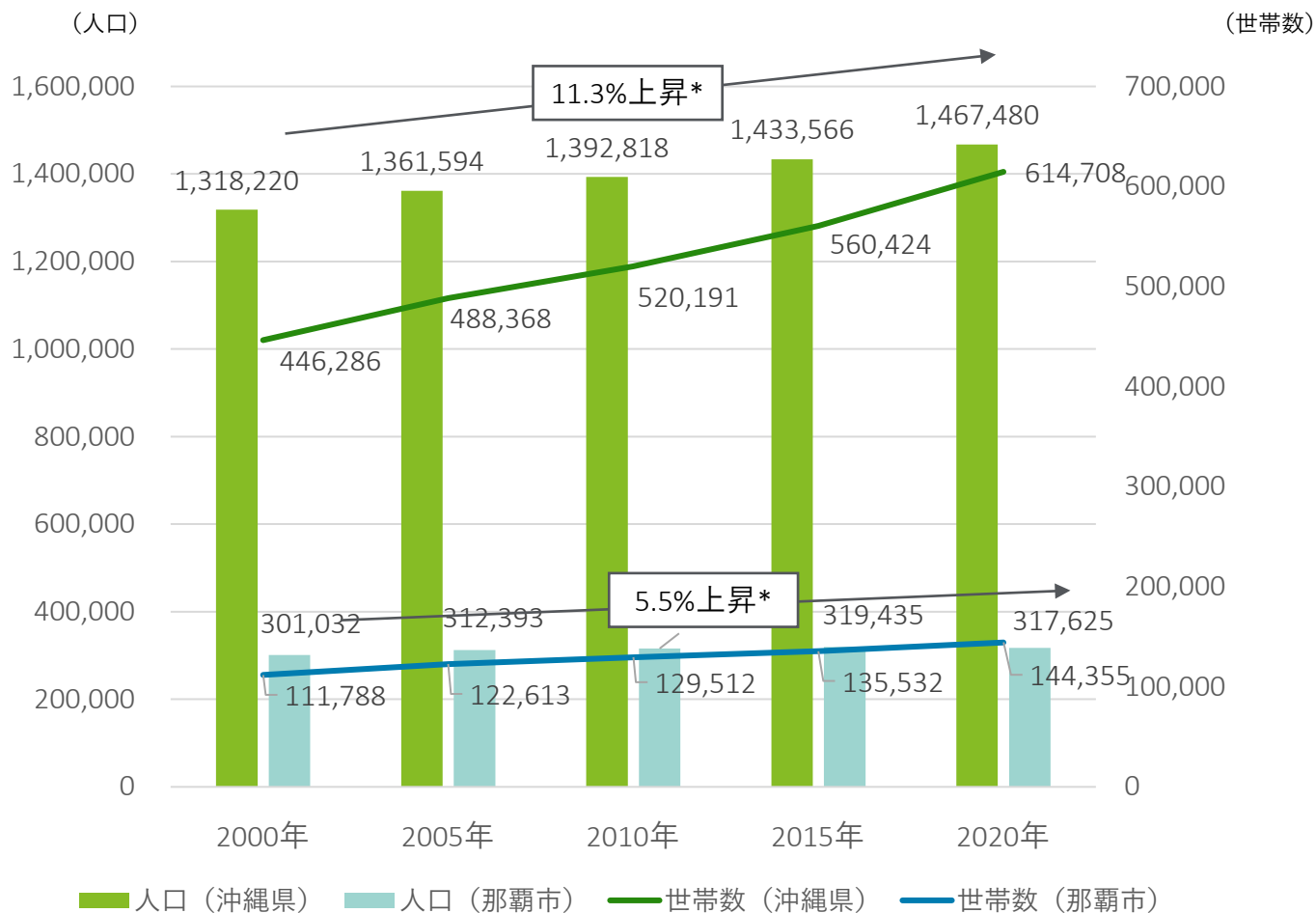
### 漁業就業者数の推移（全国・沖縄県・那覇市）



## 外的要因 | 水産業（流通）

2000~2020年にかけて沖縄県、那覇市ともに人口と世帯数は増加しているが、那覇市の人口増加率は沖縄県の人口増加率を下回っている。周辺の都市部へ顧客のターゲットを広げていく必要があると考えられる。

### 人口・世帯数の推移（沖縄県・那覇市）\*人口の上昇率



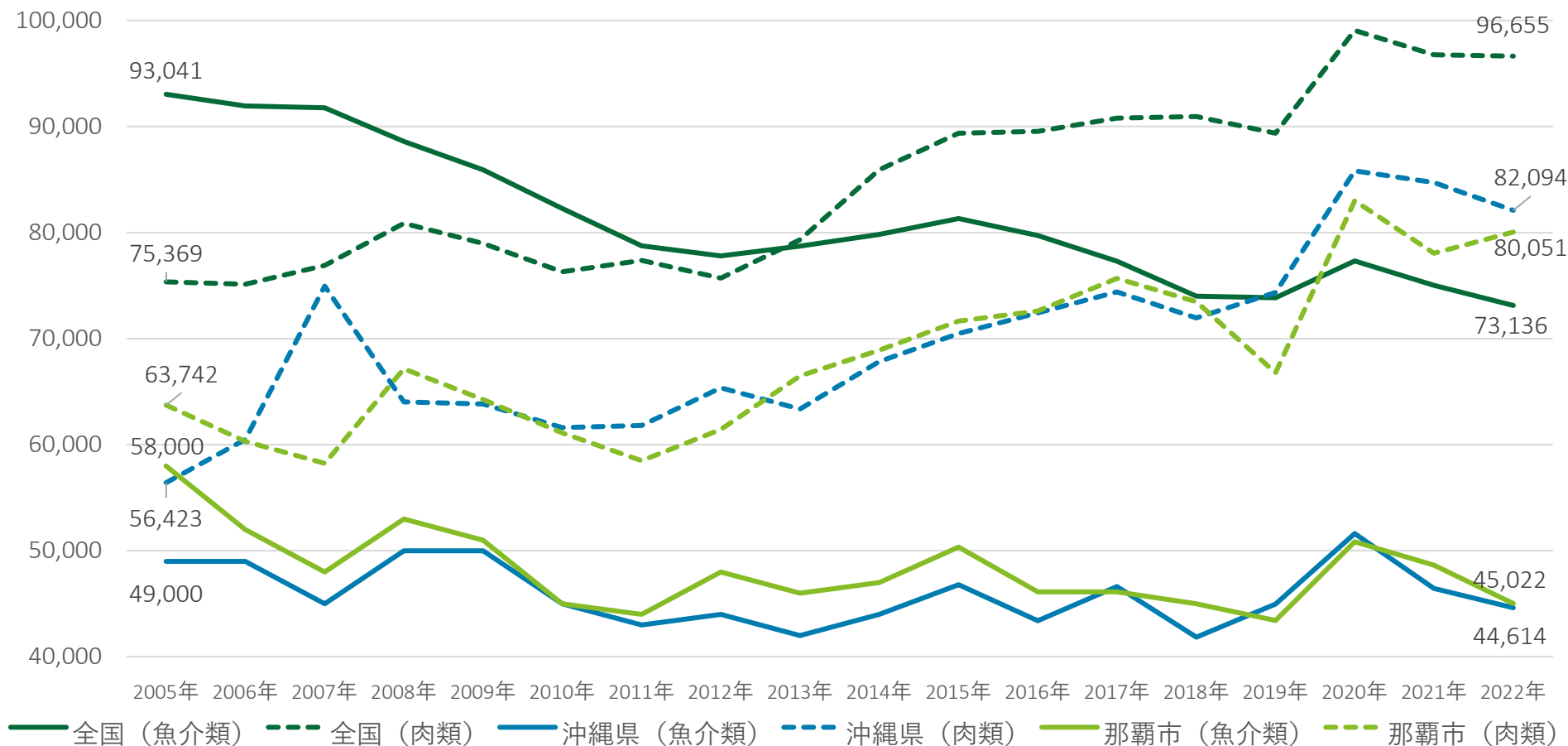
出所：沖縄県統計資料ウェブサイト(市町村別国勢調査人口の推移 (pref.okinawa.jp))を基に作成

## 外的要因 | 水産業（流通）

世帯当たりの魚介類消費支出額は沖縄県と那覇市は2009年頃からほぼ同じ額で推移している。一方、全国の魚介類消費支出額は2005年から大きく減少しており、肉類と逆転している。沖縄県内では魚介類の消費需要が安定的に継続している。

### 世帯当たりの魚介類消費支出額の推移【全国・県・市】

(円/世帯)

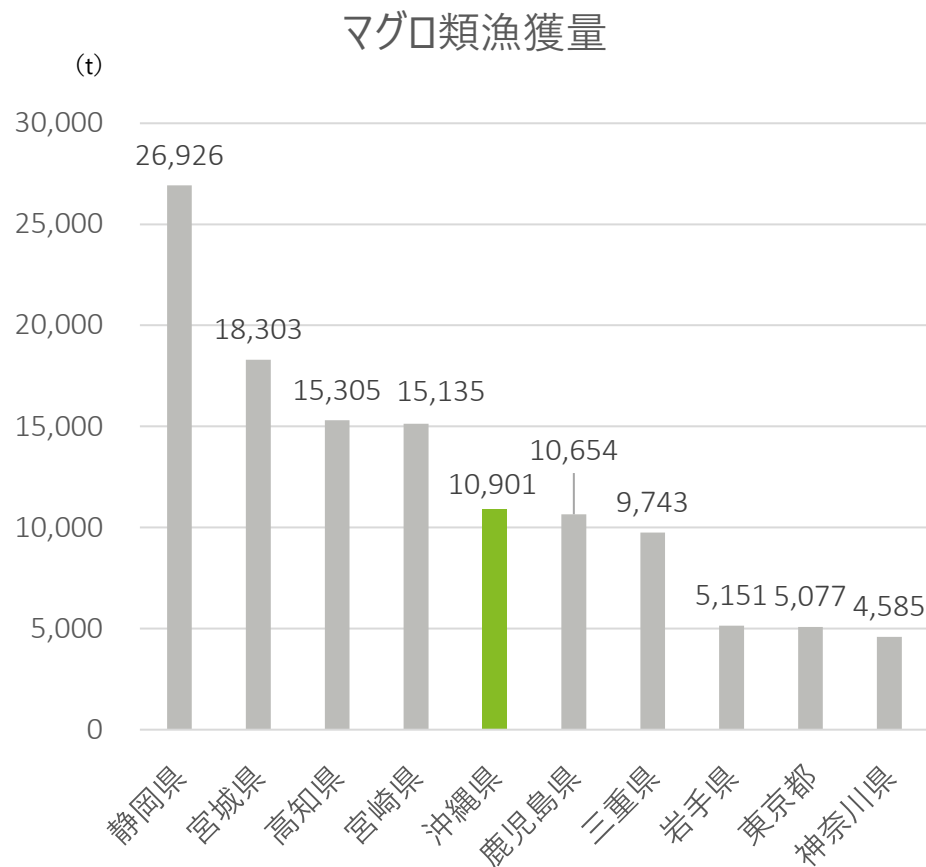


出所：政府統計の総合窓口(e-Stat)([家計調査 家計収支編 二人以上の世帯 年報 | ファイル | 統計データを探す | 政府統計の総合窓口 \(e-stat.go.jp\)](https://www.e-stat.go.jp/))「6 都市階級・地方・都道府県庁所在市別（支出金額及び購入数量のみ）-二人以上の世帯」2005年～2022年を基に作成

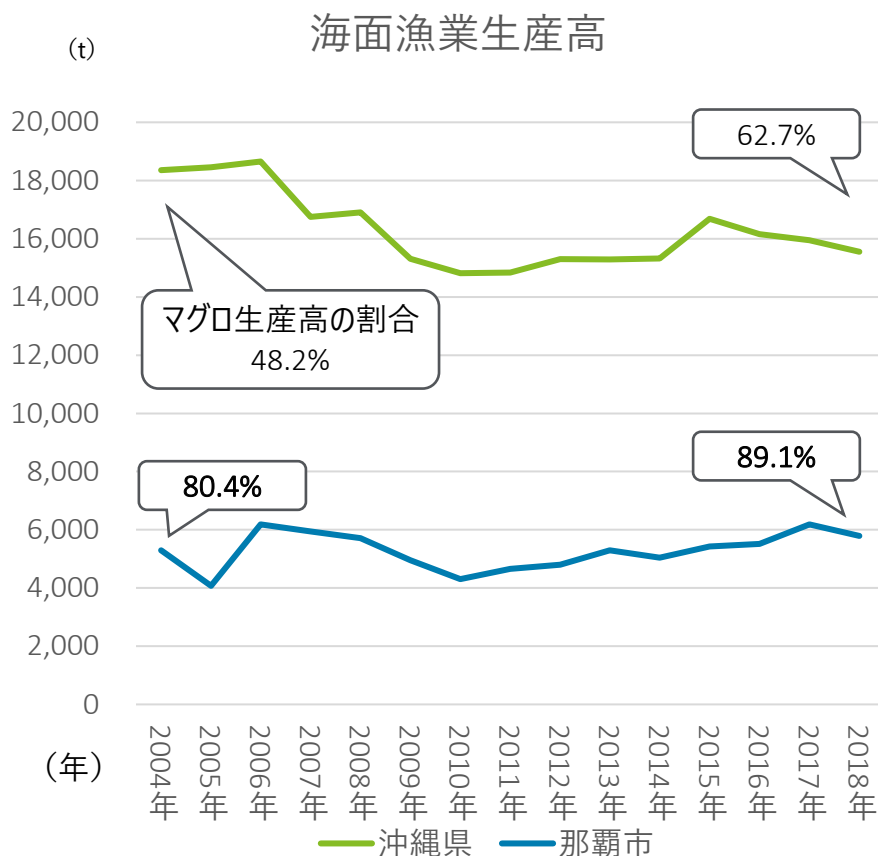
# 外的要因 | 水産業（供給生産）

沖縄県はマグロ類漁獲量が全国5位（2021年）となっており、沖縄県内では特に那覇市の海面漁業生産高に占めるマグロ生産高の割合が高くなっている。

## 2021年マグロ類漁獲量上位10都道府県



## 海面漁業生産高（沖縄県・那覇市）



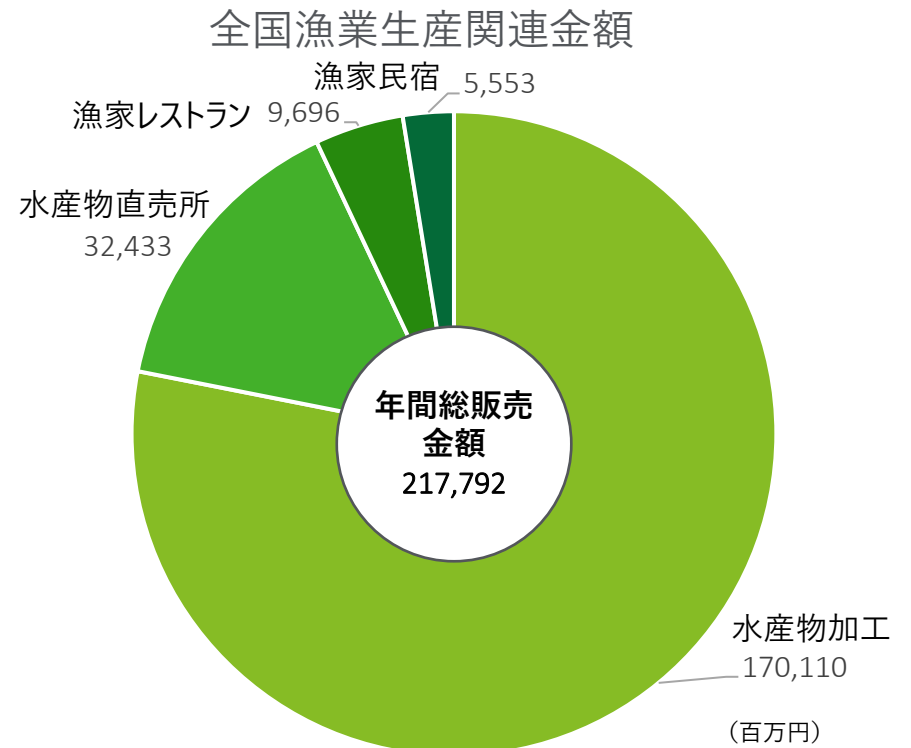
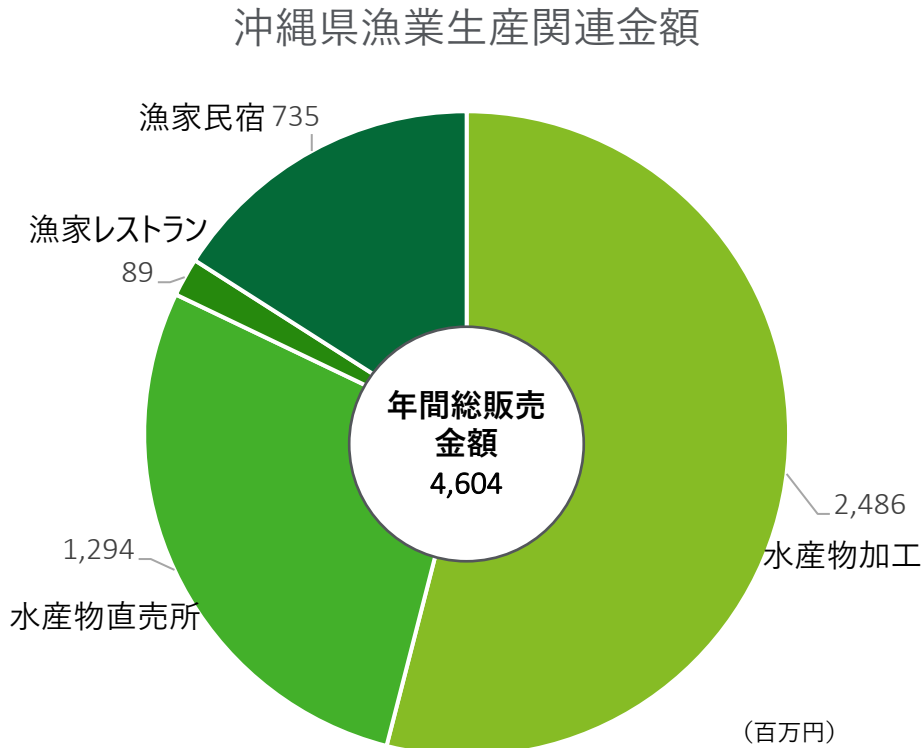
出所：政府統計の総合窓口(e-Stat) (海面漁業生産統計調査 確報 令和3年漁業・養殖業生産統計年次 2021年 | ファイル | 統計データを探す | 政府統計の総合窓口 (e-stat.go.jp)) 令和3年海面漁業生産統計調査 (農林水産省) を基に作成、沖縄農林水産統計年報(第34次~第48次)(沖縄総合事務局) (内閣府 沖縄総合事務局 - これまでの沖縄農林水産統計年報 (ogb.go.jp)) を基に作成



# 外的要因 | 水産業（販売）

2021年度の沖縄県と全国の漁業生産関連金額を比較すると、全国に比べ沖縄県は水産物加工の割合が小さく、水産物直売・漁家民宿の割合が高い。

## 2021年度6次産業化（漁業）販売金額（全国・沖縄県）



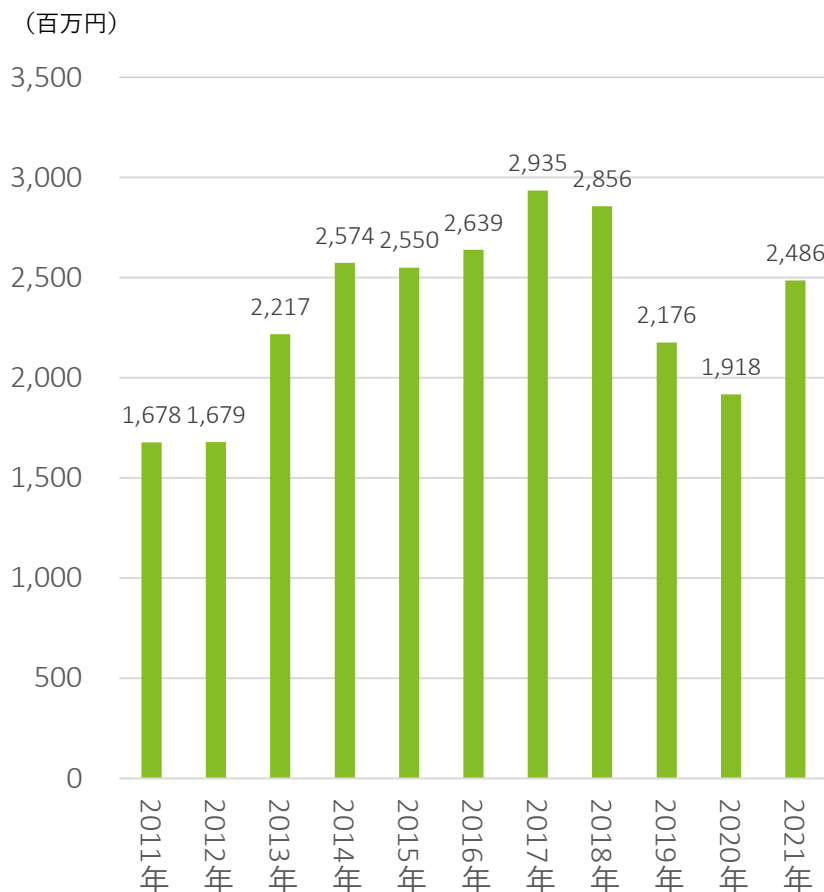
※漁家民宿：旅館業法に基づき旅館業の許可を得て観光客等を宿泊させ、生鮮魚介類や地域の食材を調理し提供して代金を得る事業  
漁家レストラン：食品衛生法に基づき不特定の人に生鮮魚介類や地域の食材を用いた料理を提供して代金を得る事業

出所：政府統計の総合窓口(e-Stat) ([6次産業化総合調査 確報 令和3年度6次産業化総合調査報告 年度次 2021年度 | ファイル | 統計データを探す | 政府統計の総合窓口 \(e-stat.go.jp\)](#)) 令和3年度6次産業化総合調査報告(農林水産省)を基に作成

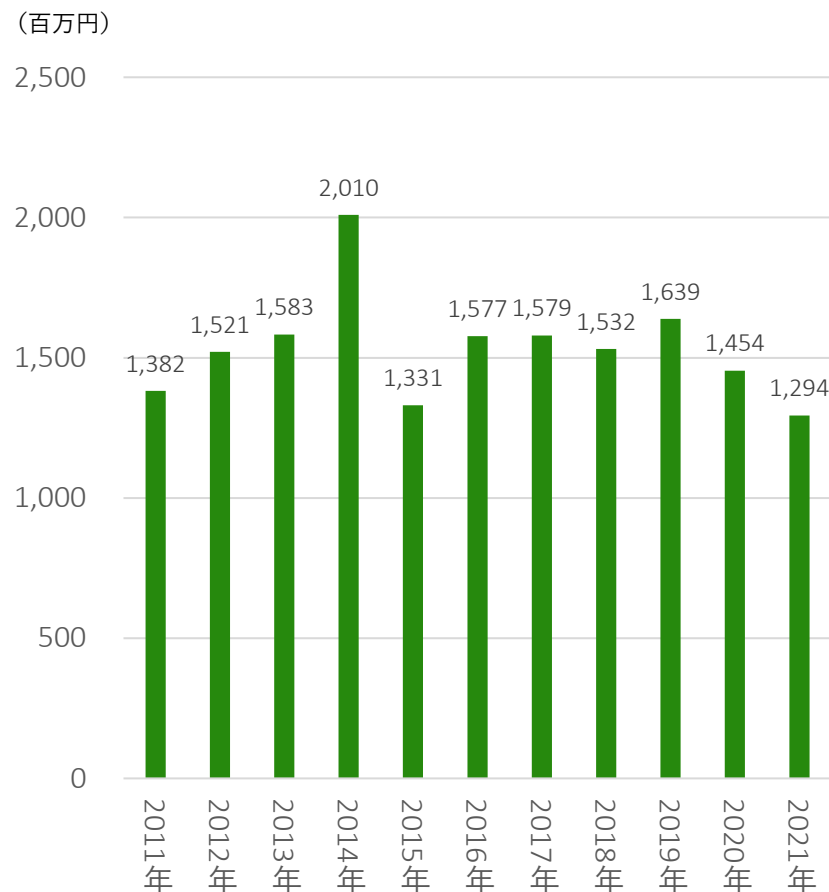
## 外的要因 | 水産業（販売）

水産物加工年間販売金額と直売所年間販売金額は2019年、2020年とともに減少後、加工販売額は2021年に増加しているが、直売所販売額は2021年も減少している。加工と直売の販売金額の推移は連動性が見られない。

### 水産物加工年間販売金額の推移（沖縄県）



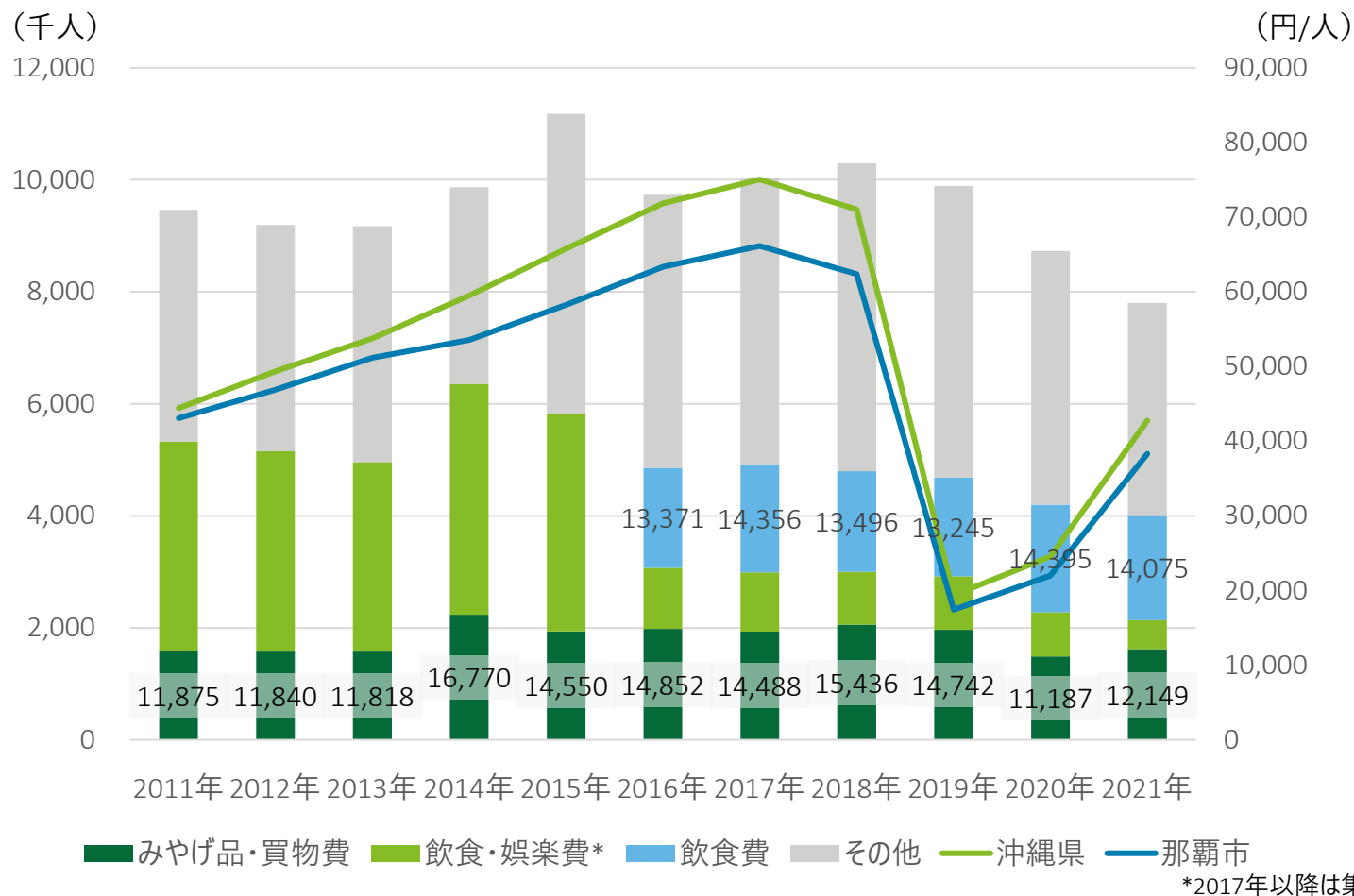
### 水産物直売所年間販売金額の推移（沖縄県）



## 外的要因 | 観光

棒グラフで示した那覇市内の一人あたり消費額の推移によると、みやげ品・買物費は10年間安定的に推移している。一方、飲食・娯楽費は減少傾向にあるが、飲食費のみで見ると横ばいで推移しており、需要は安定している。

### 入域観光客数・那覇市内の一人あたり消費額の推移（沖縄県・那覇市）



## 外的要因 | 観光

飲食、買い物の活動が上位に入っている。海のアクティビティについても「海水浴・マリンレジャー」、「ダイビング」が上位に入っており、沖縄に旅行で訪れた際の活動として高い割合を占めている。

県外客の旅行中の活動	%
観光地巡り	58.7
<b>沖縄料理を楽しむ</b>	<b>41.5</b>
保養・休養	31
ショッピング	25.5
<b>海水浴・マリンレジャー</b>	<b>14.9</b>
仕事	11.2
友人・知人訪問	9
<b>ダイビング</b>	<b>8.3</b>
エコツアー	6.1
帰省・親戚等の訪問	5.2
戦跡地参拝	4.7
伝統工芸・芸能体験	4.4

：

：

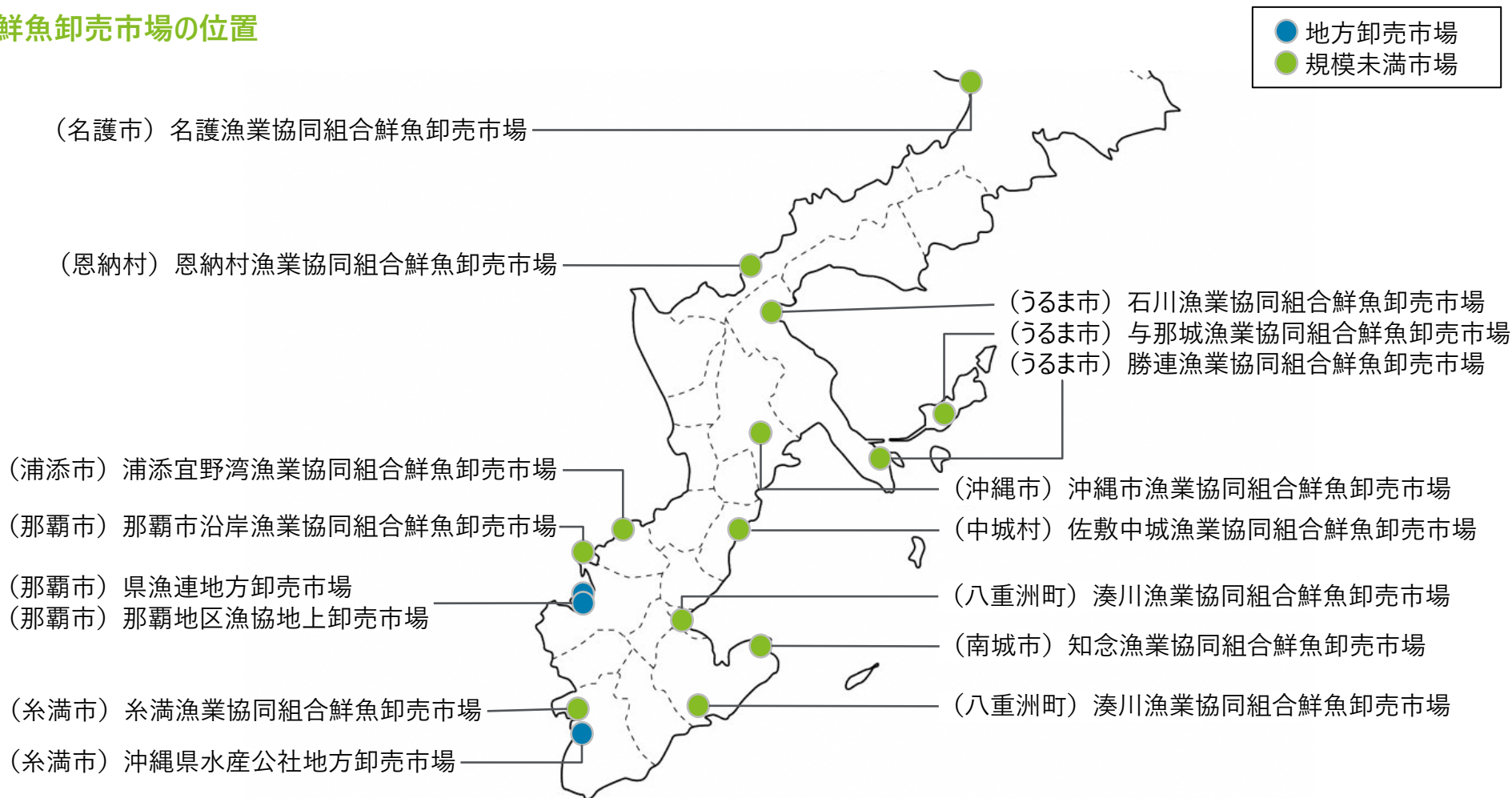
(右表に続く)

その他	4.2
ワーケーション	3.4
新婚旅行	3
ゴルフ	2.8
プロスポーツキャンプ見学	2.2
会議・研修	2
ウエディング	1.7
スパ・エステ	1.6
<b>釣り</b>	<b>1.5</b>
伝統行事	1.2
コンサート	1.2
スポーツ大会等	1.1
イベント	1
空手	0.3

# 外的要因 | 水産業（販売）

沖縄県内の水産物卸売市場は、地方卸売市場が3つと規模未満卸売市場が17つである（地図上では13スポット）が、施設の老朽化や小規模市場の零細化に伴い、漁協の合併・事業統合が進められている。

## 鮮魚卸売市場の位置



# 外的要因 | 水産業（販売）

県漁連が運営する直売所は沖縄県内に12つある。（内、県南部には⑤・⑥の2つ）⑤泊いゆまち（右写真）にはマグロの直売が多く、直売所内には飲食スペースが設けられている。

## 直売所の施設概要



- ①いげな漁協直売所（伊是名漁業協同組合）、②読谷村漁協鮮魚直売店（読谷村漁業協同組合）、③座間味直売所、阿嘉直売所（座間味村漁業協同組合）、④お〜ばんまい食堂（伊良部漁業協同組合）、⑤泊いゆまち（沖縄鮮魚卸流通協同組合）、⑥糸満お魚センター（糸満漁業協同組合）⑦パヤオ直売店（沖縄市漁業協同組合）、⑧勝連漁協のてんぷら屋（勝連漁業協同組合）、⑨石川漁協魚屋さん（石川漁業協同組合）、⑩車えびレストラン球屋（沖縄県車海老漁業協同組合）、⑪国頭港食堂（国頭漁業協同組合）、⑫名護漁港水産物直売所（名護漁業協同組合）



出所：沖縄県漁業協同組合連合会HP（[沖縄県漁業協同組合連合会\(jf-okinawa.jp\)](http://jf-okinawa.jp)）

# 外的要因 | 水産業（販売） | 泊いゆまち・糸満お魚センター

泊いゆまちは主に、水揚げしたマグロの販売を行っており、市場内には簡単な飲食スペースが設けられている。糸満お魚センターは「道の駅いとまん」にある魚市場で水産加工品も取り扱っている。

## 泊いゆまち

名称	泊いゆまち
所在地	那覇市港町1丁目1-18
延床面積	約2,050㎡
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>マグロ専門店やモズク専門店など、水産物仲卸業者23店舗が軒を連ねる</li> <li>水揚げ量は、一日平均20トンで約70%はマグロ</li> <li>各店舗がその日水揚げされた新鮮な魚介類を販売している</li> </ul>



## 糸満お魚センター

名称	糸満お魚センター
所在地	糸満市西崎町4-19
延床面積	—
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>11店舗の鮮魚店が軒を連ね、地元で獲れた鮮魚やモズク、海ぶどうなどが店頭に並ぶ</li> <li>水揚げされたばかりの新鮮な魚をはじめ、糸満名物のバクダンかまぼこや寿司などの水産加工品も各種も取り扱っている</li> </ul>

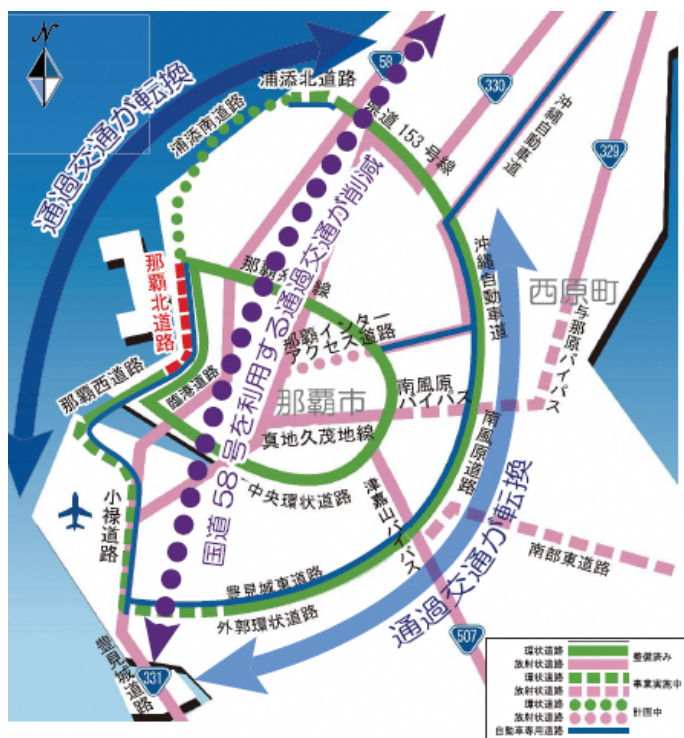


# 外的要因 | インフラ（物流） | 那覇北道路

那覇北道路は沖縄県西海岸道路（読谷村から糸満市に至る約50kmの地域高規格道路）の一部である。那覇北道路の整備により、国道58号線や那覇都市圏の交通渋滞緩和と那覇空港・那覇港へのアクセス向上の効果が期待されている。

## 整備効果① 円滑な道路交通の確保

那覇北道路の整備により、那覇市内に環状道路の一部が掲載され、市街地の通過交通が約4割削減される。市街地の通過交通の削減により、国道58号線の定時性・速達性の向上が期待される。



## 整備効果② 地域経済・地域社会への貢献

沖縄県では沖縄振興計画「沖縄21世紀ビジョン」に基づき、観光振興を推進している。物流拠点である那覇港と那覇空港、観光・文化施設が集まる県南地域とのつながりが強化され、産業や観光名での地域振興への貢献が期待される。





# 外的要因 | インフラ（物流） | 那覇港

那覇港は沖縄県の生活・産業関連貨物の大部分を占める港湾貨物を取り扱う物流の拠点である。各種優遇制度を活用できる「国際物流拠点産業集積地域」の指定を受け、令和元年5月に那覇港総合物流センター（第1期）が開業しPFI法に基づき運営されている。

## 位置図・概況



出所：国土地理院ウェブサイト (<https://maps.gsi.go.jp/maplibSearch.do?specificationId=1210878>)、  
(<https://maps.gsi.go.jp/maplibSearch.do?centerLat=26.241461844986357&centerLon=127.67774105072023&zoomLevel=15&did=pale>)、  
那覇港管理組合HP ([PowerPoint プレゼンテーション \(nahaport.jp\)](#))

# 外的要因 | インフラ（物流） | 那覇港総合物流センター

那覇港総合物流センターは、沖縄県産品や海外・本土から部品を調達し、流通加工して“付加価値”を高め国内外へ出荷を図っている。同センター（1期）の総取扱貨物量は開業初年度から集荷計画値を達成し、那覇港の物流ハブ化にとって大きな役割を担っている。

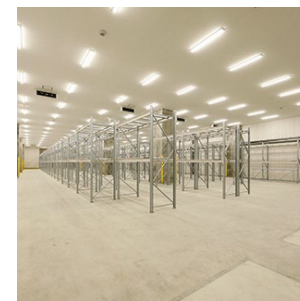
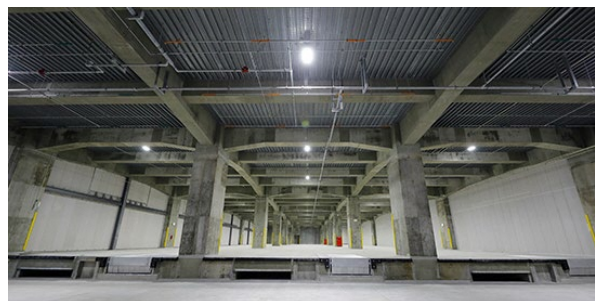
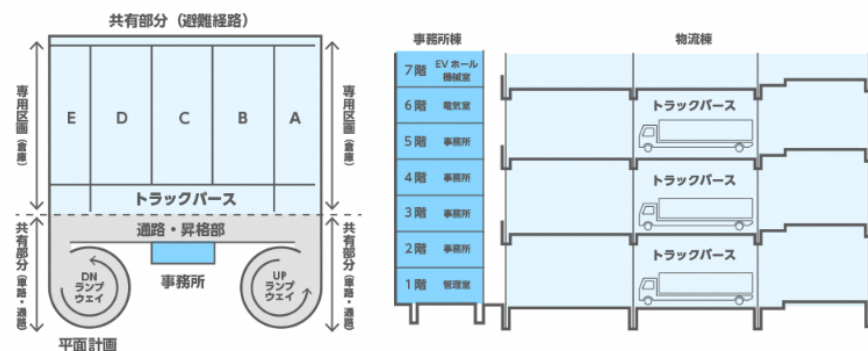
## 施設概要

名称	那覇港総合物流センター
所在地	那覇市港町1丁目205番地の一部、206番地の一部
延床面積	約31,485㎡（約9,540坪）
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>効率的な配送への取組み：異業種間の物流共同化</li> <li>IT技術等を活用した取組み：NACCS連携WMSやタブレット・システムの導入等</li> </ul>
コンセプト	<ul style="list-style-type: none"> <li>東アジアの中心に位置する那覇港の地理的特性を生かした輸出入貨物の取扱拠点を形成する。</li> <li>沖縄県と本土各地の国内物流ネットワークとの連携を深めることで国内外物流の結束点を構築し、関連産業の視野が広い物流を通じて沖縄県経済の発展に貢献する。</li> </ul>
背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>那覇国際コンテナターミナルと国内貨物の取り扱い岸壁の間に位置しており、国際物流機能の集積が期待される。</li> <li>那覇港と那覇空港を結ぶ「那覇うみそらトンネル」が開通したことでアクセスが向上しており、海上貨物と航空貨物とのSEA&amp;AIRによる連携が進むと総合物流センターの需要は高まると予想される。</li> </ul>

## フロアマップ

物流棟（各フロア5区画設置）	面積（㎡、坪）	
A、E区画	約1,629㎡	約490坪
B、C、D区画	約2,412㎡	約730坪
5区画合計	約10,495㎡	約3,180坪

物流棟各階仕様	面積（㎡、坪）	
1階：冷凍・冷蔵専用	約10,495㎡	約31,485㎡ （約9,540坪）
2階：冷凍・冷蔵・ドライ	〃	
3階：ドライ専用	〃	



## 3-2. 誘客手法調査

# 沖縄県及び那覇市の観光戦略としての位置づけ

先述した県と那覇市の「港湾に期待される役割、那覇港の開発計画等」において記されている内容に加え、それぞれの観光戦略としての位置づけにおいて、対象地域と結びつけて期待される役割は、那覇市ならではの地場産品（食）の提供とウォーターフロントとしての開放的な空間の提供である。

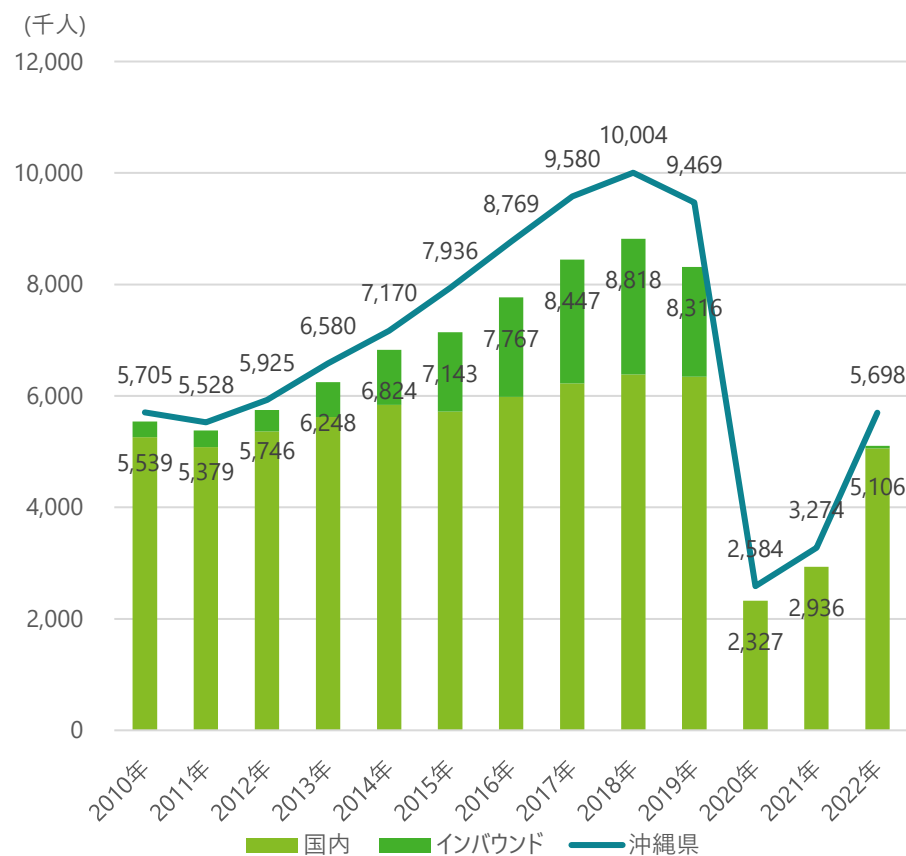
## 国・県の上位計画・関連計画まとめ

発行体		計画名称	港湾に期待される役割、那覇港の開発計画等	観光戦略としての位置づけ
沖縄県	観光	第6次沖縄県観光振興基本計画（改訂版）	<ul style="list-style-type: none"> <li>クルーズ船の寄港やラグジュアリー船を誘致し、クルーズ観光による経済効果を高める。</li> <li>【那覇港】国際旅客船拠点形成港湾として旅客専用バスやビーチ等を整備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「世界から選ばれる持続可能な観光地」(Vision)</li> <li>地元の海産物・農産物・畜産物など新鮮で栄養豊富な食材を活用した「沖縄でしか味わえない食」を提供（本質的な価値）</li> </ul>
那覇市	観光	那覇市観光基本計画(2015年) (更新計画を策定中)	<ul style="list-style-type: none"> <li>入域者数拡大のため、クルーズ船の誘致とバスの増設、周辺環境、景観整備に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>沖縄MICE観光誘致と機能強化、アフター・ビジネス兼観光の充実</li> <li>那覇市ならではの地場産品、物産の継承、発掘と魅力向上</li> <li>沖縄のウォーターフロントに相応しい開放的な海、川を感じ、市街地との連携を図るゾーン（出港、入港を眺めながらの探索・散歩）</li> </ul>

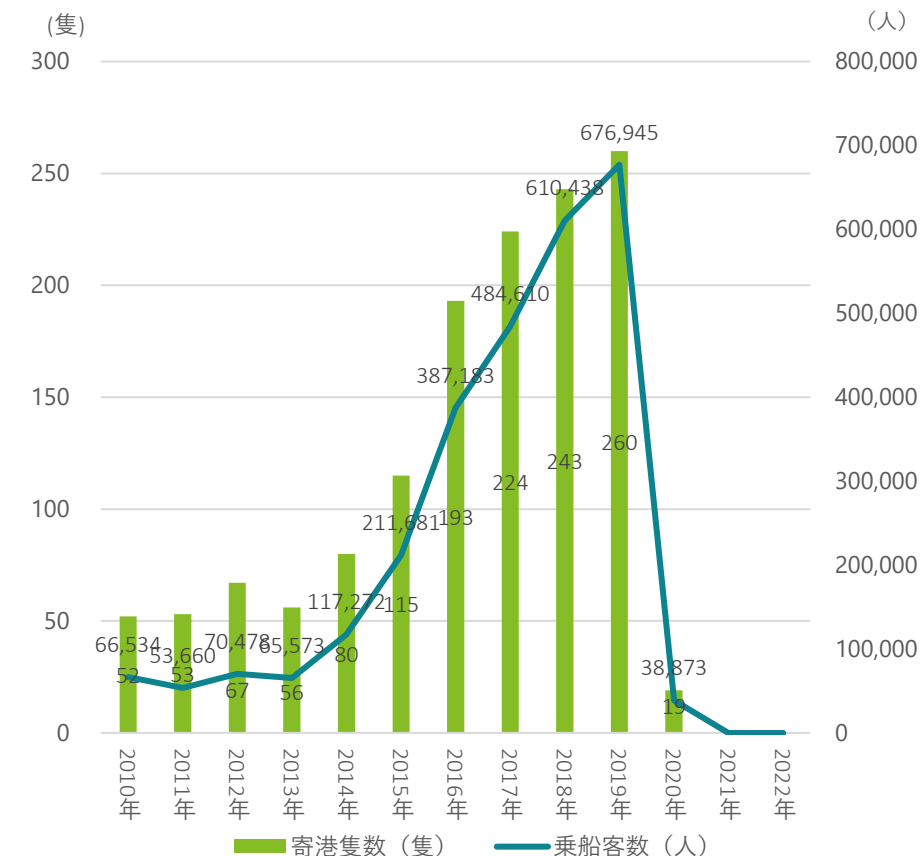
# 多様な客層を取り込む手法の調査

コロナ渦以降観光は国内観光客は回復してきており、今後はインバウンド客とクルーズ船の寄港の回復が期待される。

## 沖縄県及び那覇市の入域観光客数推移



## 那覇港へのクルーズ船寄港実績推移

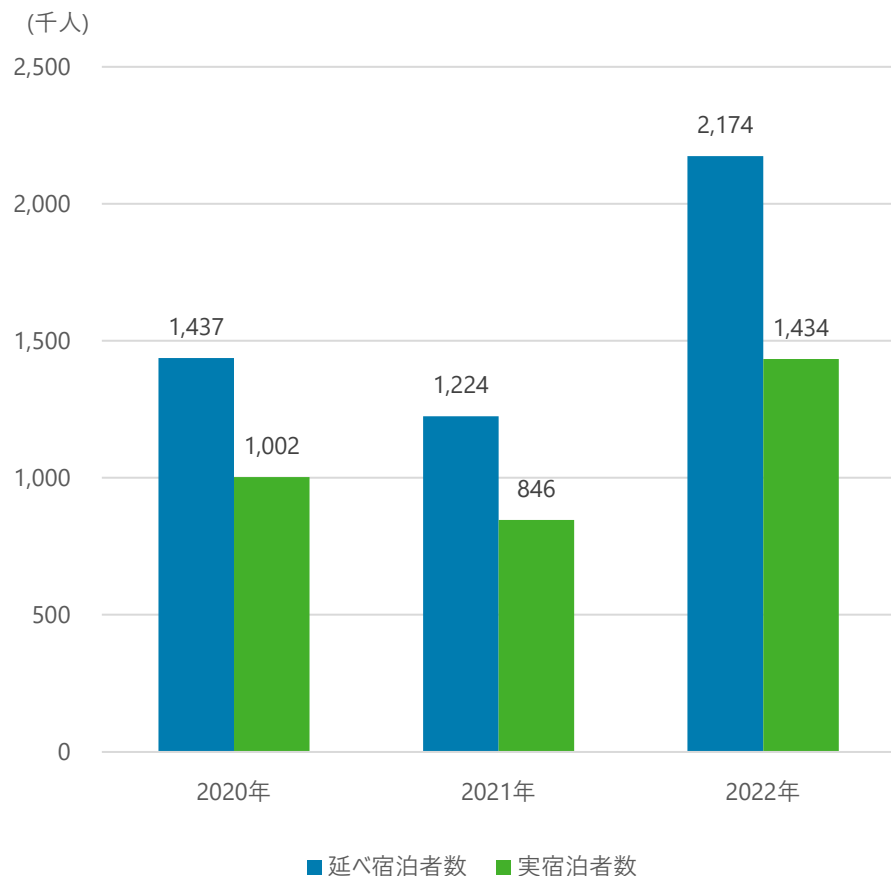


出所：令和4年度那覇市観光統計 ([R4 toukei.pdf \(city.naha.okinawa.jp\)](https://www.city.naha.okinawa.jp/r4_toukei.pdf)) を基に作成

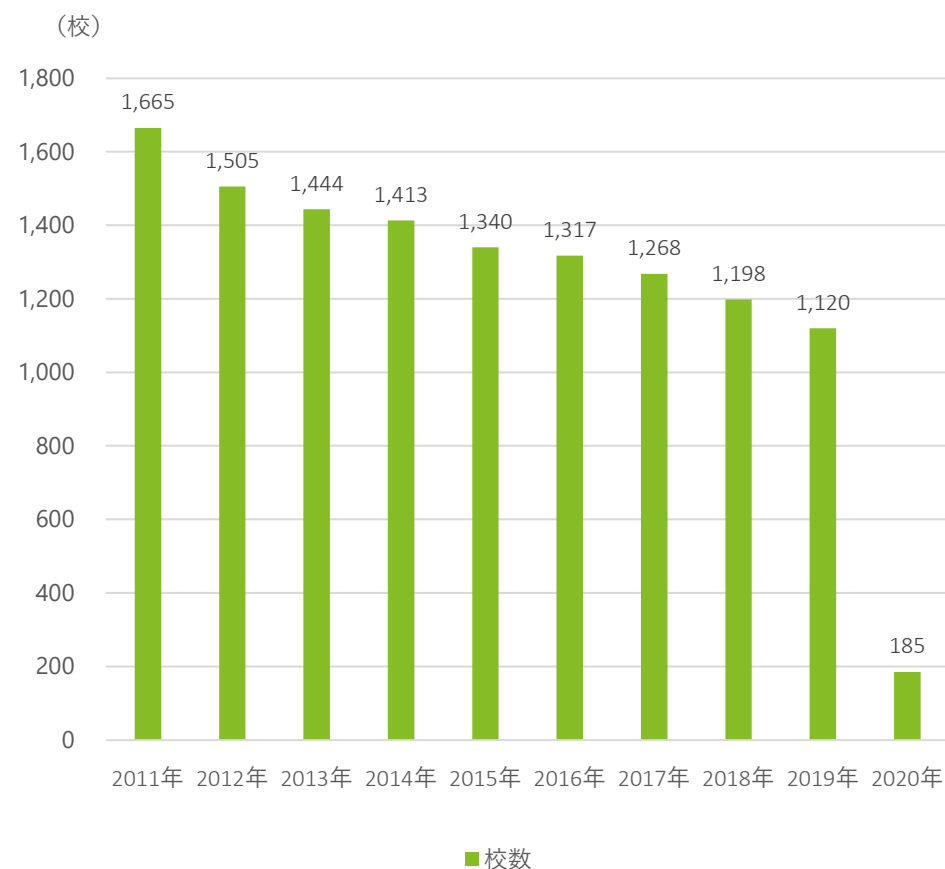
# 多様な客層を取り込む手法の調査

那覇市内における延べ宿泊者数・実宿泊者数もコロナ渦を経て回復傾向にある。修学旅行の那覇市内入込実績（校数）についてはデータの取得期間にズレがあるが、今後も一定の入込が見込めるターゲットの一つである。

## 市内宿泊施設の延べ宿泊者数・実宿泊者数



## 修学旅行那覇市内入込実績



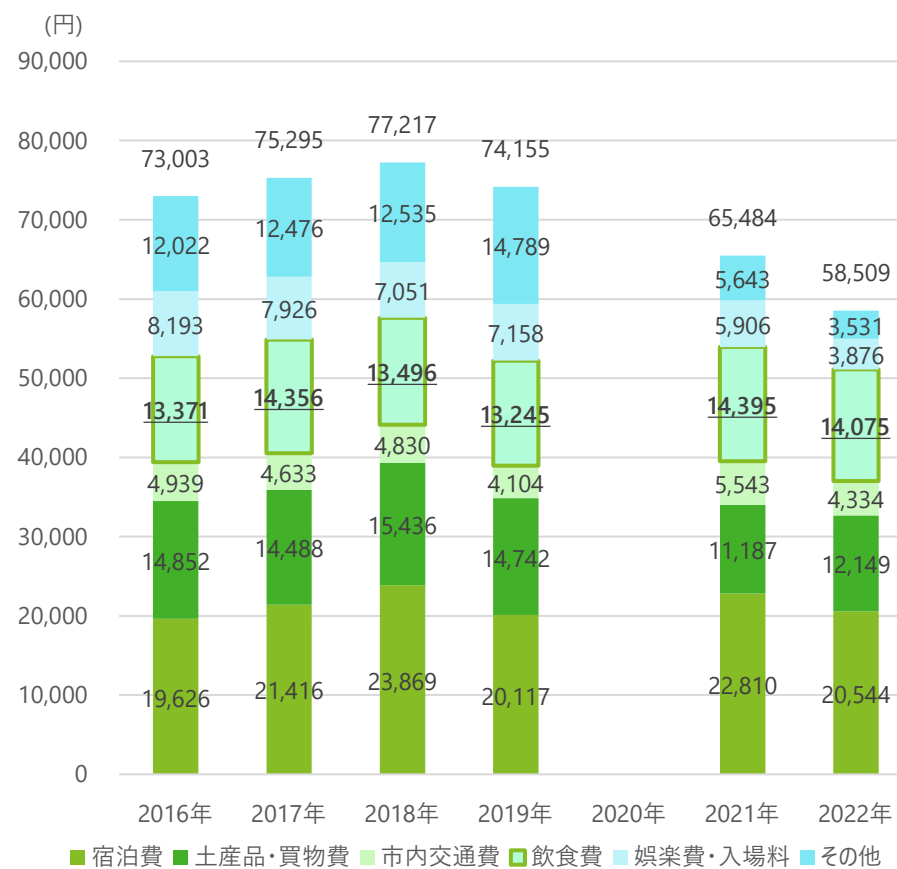
## 多様な客層を取り込む手法の調査

観光客が旅行中に行う「沖縄料理を楽しむ」という活動は上位に位置し、市内消費額推移にある「飲食費」は一定の額を維持している。同様に上位に位置するマリンスポーツ、ダイビングは対象地域が発着地点の一つとして行われている活動である。

### 観光客の旅行中の活動（一部再掲）

県外客の旅行中の活動	%
観光地巡り	58.7
<b>沖縄料理を楽しむ</b>	<b>41.5</b>
保養・休養	31
ショッピング	25.5
<b>海水浴・マリンスポーツ</b>	<b>14.9</b>
仕事	11.2
友人・知人訪問	9
<b>ダイビング</b>	<b>8.3</b>
エコツアー	6.1
帰省・親戚等の訪問	5.2
戦跡地参拝	4.7
伝統工芸・芸能体験	4.4

### 宿泊者一人あたりの市内消費額推移（一部再掲）

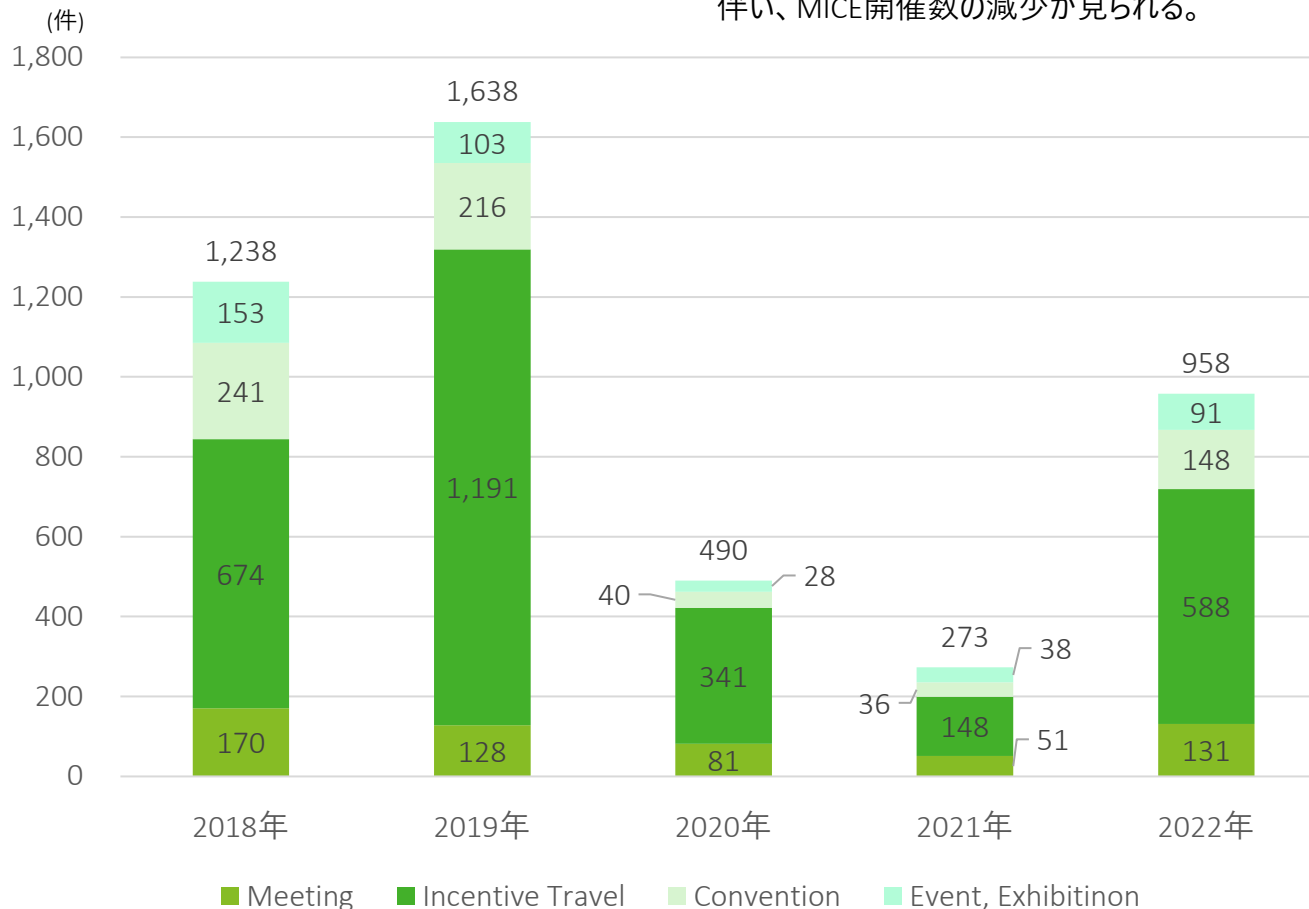


※2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により統計調査は実施されていない。

# 県内で開催される MICE との連携可能性調査

県内で開催されるMICEの件数は2020年と2021年に大きく減少したが、2022年は回復傾向にある。MICEの内訳としてはIncentive Travel の割合が最も高く、例年開催件数の5割以上を占めている。

## MICE開催件数の推移（2018年～2022年）



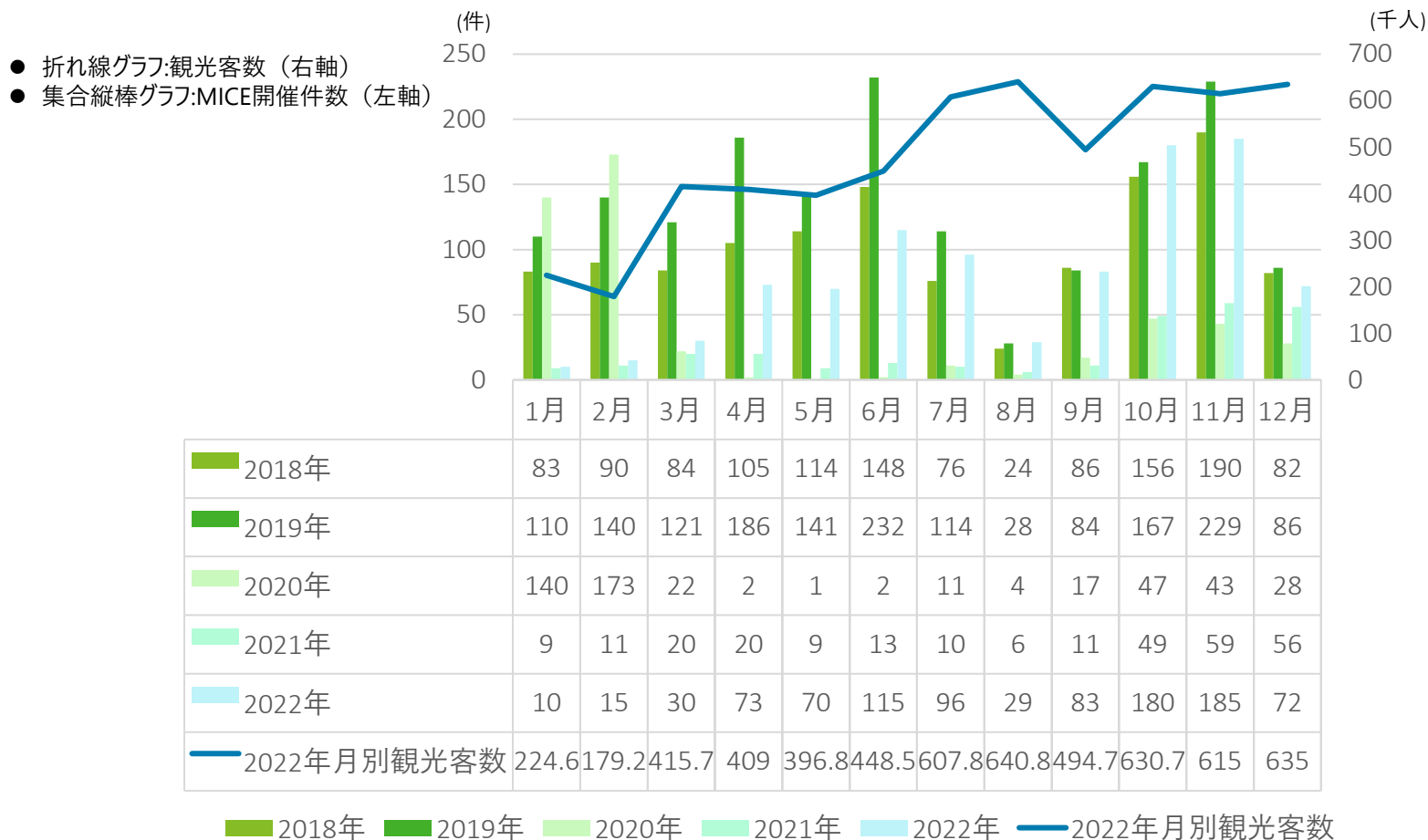
※2020年4月にコロナウイルスに伴う緊急事態宣言が全国に発令、2021年3月に全面解除された。2020年と2021年は集会開催の制限や自粛に伴い、MICE開催数の減少が見られる。



# 県内で開催される MICE との連携可能性調査

県内開催のMICEは月により開催数の波はあるが、観光の繁閑に合わせて開催時期を調整しているものと考えられる。今後観光事業とMICEの連携をさらに強化することで、一年を通じた訪問者数の均一化を図ることが可能と考えられる。

## 月ごとのMICE開催件数の推移（2018年～2022年）と月別観光客数（2022年）

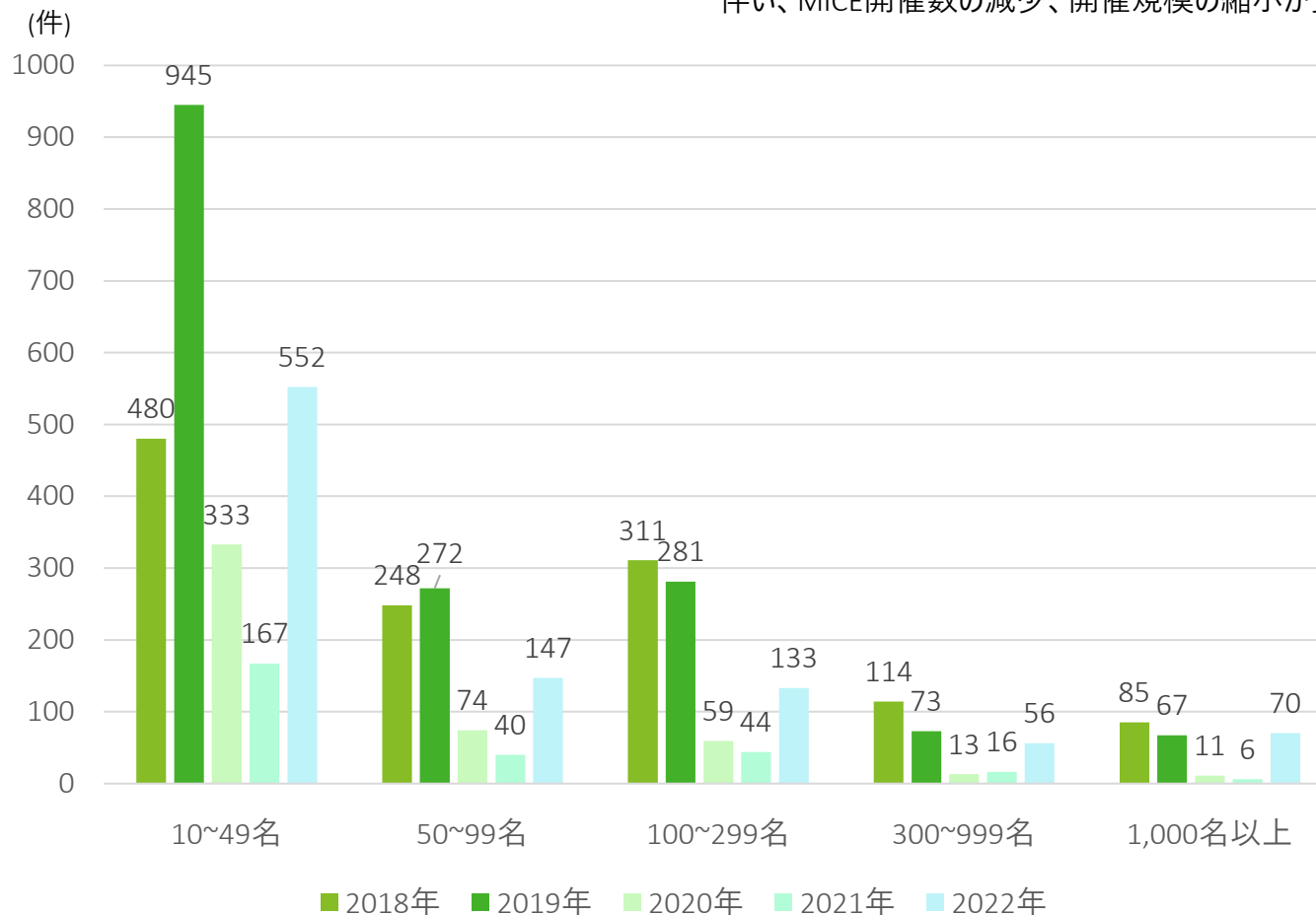


# 県内で開催される MICE との連携可能性調査

県内で開催されたMICEを規模別で分類すると、50名未満の小規模開催が大半を占めている。一方で300名以上の大規模開催も年間100件以上行われている。

## MICE規模別開催件数の推移（2018年～2022年）

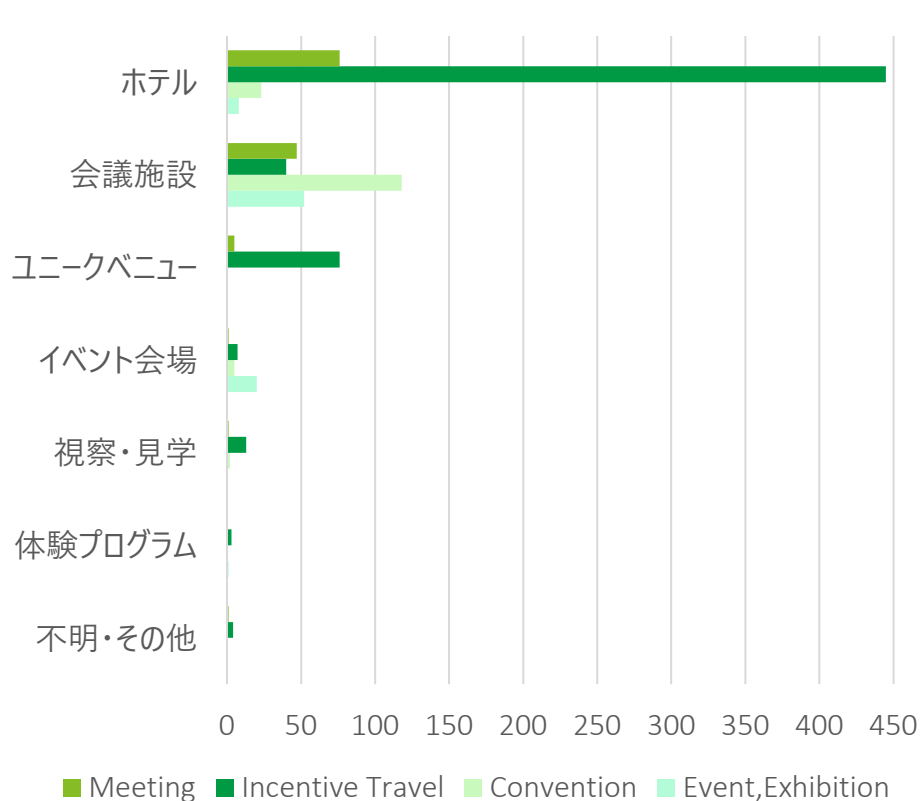
※2020年4月にコロナウイルスに伴う緊急事態宣言が全国に発令、2021年3月に全面解除された。2020年と2021年は集会開催の制限や自粛に伴い、MICE開催数の減少、開催規模の縮小が見られる。



# 県内で開催される MICE との連携可能性調査

県内のMICEの開催件数を施設別で見ると、Meeting・Incentive Travelではホテルの利用が多く、Convention・Event,Exhibitionでは会議施設の利用が多くなっている。沖縄ならではのユニークベニューは、Incentive Travelで多くの利用が見られる。

## 施設別MICE開催件数（2022年）



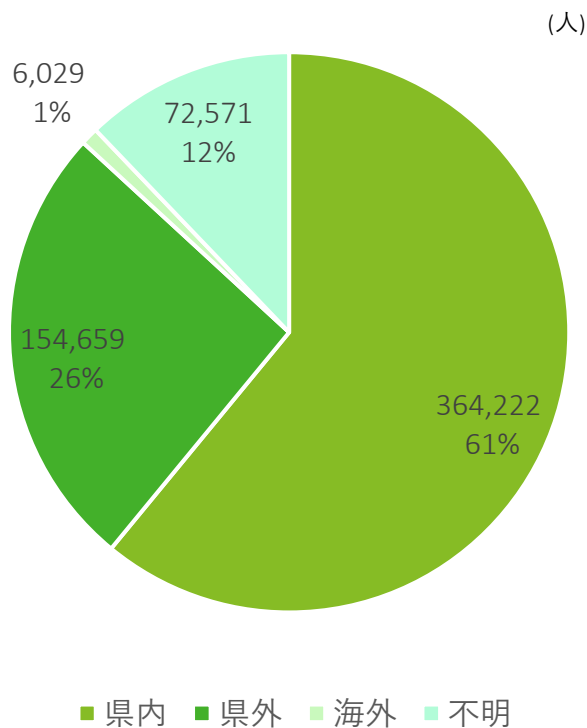
	Meeting	Incentive Travel	Convention	Event, Exhibition	合計
ホテル	76	445	23	8	552
会議施設	47	40	118	52	257
ユニークベニュー	5	76	0	10	91
イベント会場	1	7	5	20	33
視察・見学	1	13	2	0	16
体験プログラム	0	3	0	1	4
不明・その他	1	4	0	0	5

※ユニークベニューは、万国津梁館やガンガラーの谷等、沖縄ならではの特別感や地域特性を演出できる施設を指す。

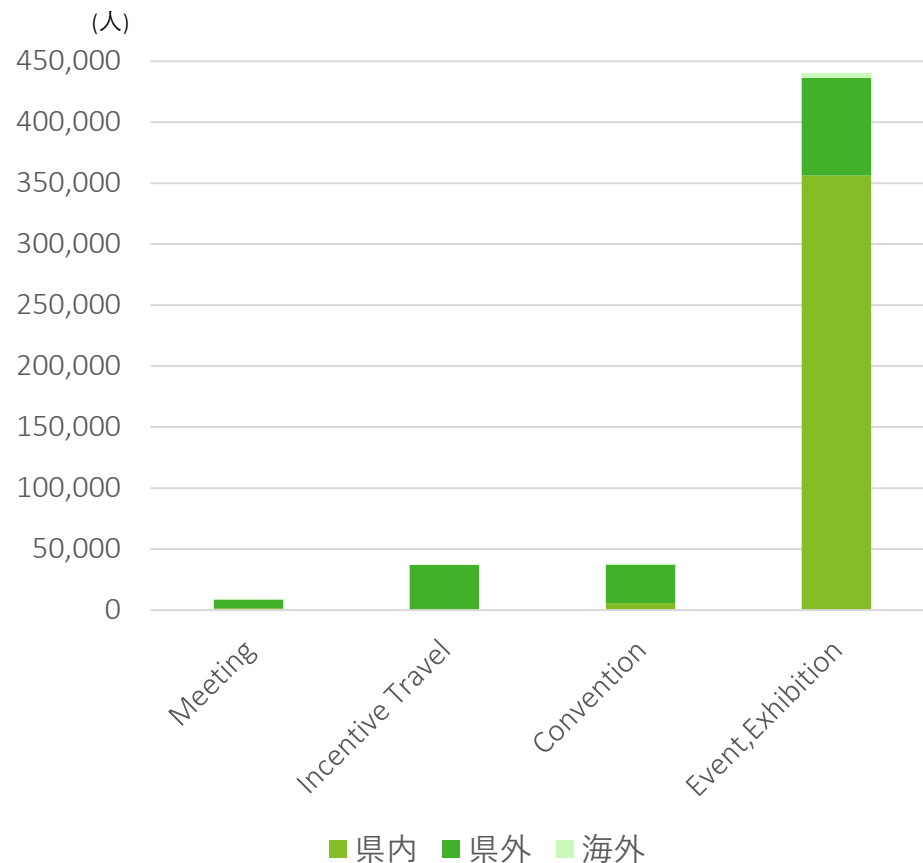
# 県内で開催される MICE との連携可能性調査

MICE参加者の地域的属性は県内参加者が6割を占めており、これはEventやExhibitionへの県内からの積極的な参加に起因している。今後は県外・海外参加者拡充に向けた施策も必要である。

## MICE参加者の地域分布（2022年）



## MICEごとの参加者の地域分布（2022年）

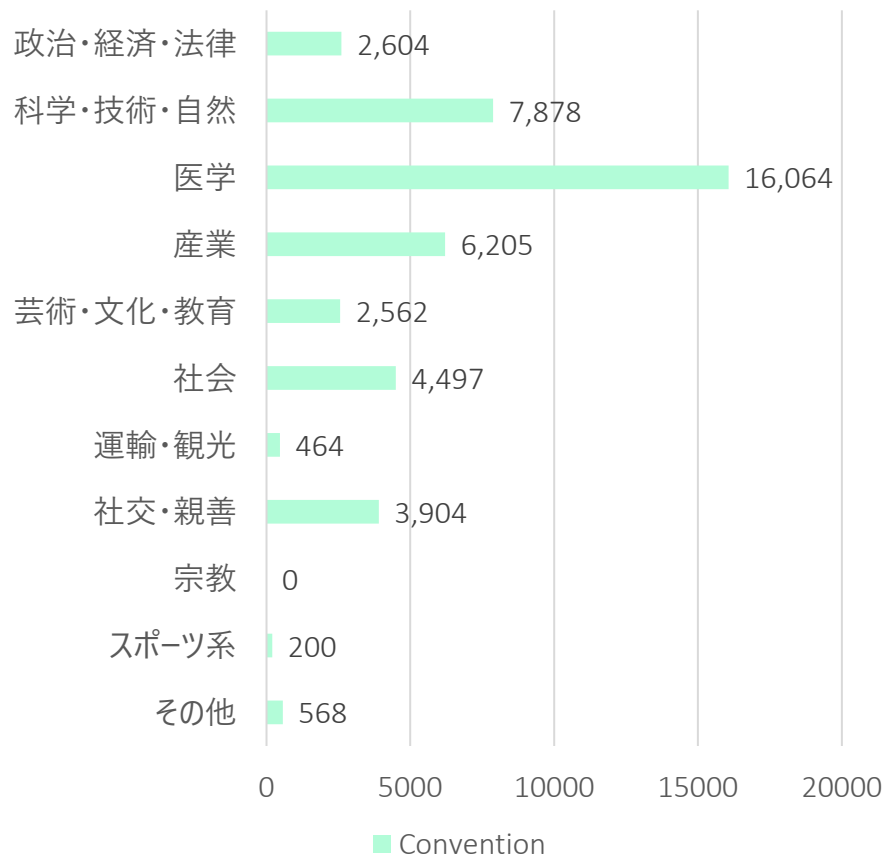
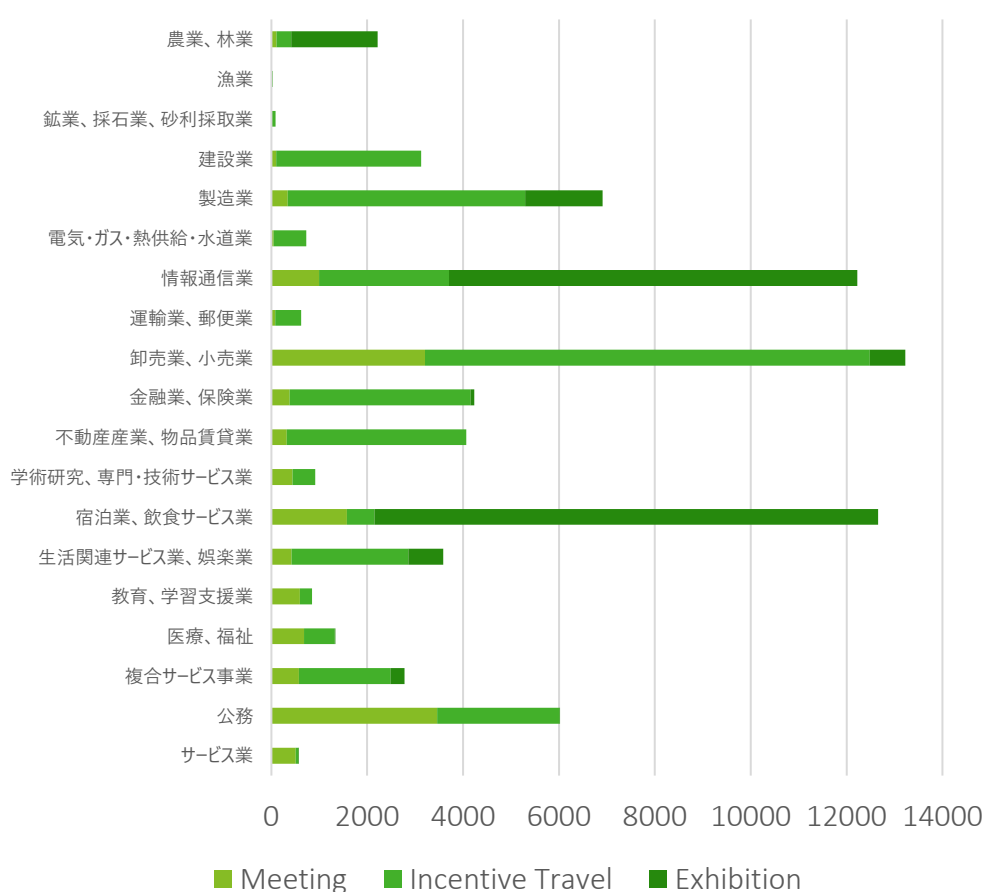


# 県内で開催される MICE との連携可能性調査

MICE参加者数を産業別に分析すると、Meetingでは公務従事者、Incentive Travelでは卸売業・小売業従事者、Exhibitionでは宿泊業・飲食サービス業従事者、Conventionでは医学分野従事者が他と比べ多くの参加者を記録している。参加者の職業属性は、今後のMICE開催やアフターMICEのアプローチ検討に活用可能と思料する。

産業別MIE参加者数（2022年）

(人) 産業別Convention参加者数（2022年）



# 県内で開催される MICE との連携可能性調査

アフターMICE施設の種類は約7割が自然を感じられるスポットや、歴史・文化に触れられる施設であり、沖縄本島内に施設全体の約7割が集中している。

## アフターMICE施設の種類・地域分布

	商業施設等 (例:美浜アメリカン ビレッジ)	歴史・文化的施設 (例:那覇市歴史 博物館)	自然系スポット (例:美らSUNビーチ)	動物園水族館等 (例:美ら海水族館)	レジャー施設 (例:おきなわワールド)	その他施設	合計
那覇	2	6	2	0	0	1	11
久米島地区	0	0	1	1	0	0	2
八重島地区	0	2	1	0	1	0	5
宮古地区	0	3	3	1	0	0	7
沖縄本島 中部	3	2	10	1	2	1	19
沖縄本島 北部	4	2	11	2	2	1	21
沖縄本島 南部	2	5	4	0	2	0	13
沖縄本島 周辺離島	0	0	1	0	0	0	1
合計	11	20	32	5	7	3	79